



發行所
磐城日日新聞社
福島縣小浜町港廻51
電話代表387番
振替仙台31,355番
編集兼行人
長瀬芳郎

志賀市長の構想如何

興・望・担・う・模・擬・市・會

二十一日午後一時開会

五万市民の希望と期待を一身に集めて十五日開催予定された本社主催模擬市会は折から舊正月とあつて商店は初賣出し、購入者に忙殺され遂に延期のやむなきに至つたが激戦三十有余日の果て小名浜町を中心五万市民は大小名浜市・大磐南市の構想強く、市民の信頼ある事になりました。

志賀市長以下三

十の市議員、その信

望期待を一身に担つての

横濱市会は果して良く市

民に應え得るや否や、志

賀新市長の懷中深くひそ

む市政への抱負は、先ず

第一番に期する處は小名

浜の生命、港灣問題があ

る、歴代理事者の爲さん

の構想強く、市民の信

頼難をいたゞきまして本

紙も発刊以来四年目を迎

える事になりました。

只見電源の開発、口平線

の完成と相まつて磐磐地

の發展は小名浜港の改

修にも曙光を見出しこそ

る事になりました、こ

立場から地方民の上に立

本社新企画の創 設に當りよして

磐城日日新聞社長
長瀬芳郎



の发展えの年に際し、地
方紙に寄せられる存在意
義とそまとだ大なるも
のがあるのではないかと
不肖考査致すものであります、
新年来地方新聞の
改修にも曙光を見出しこそ
の思想で言わざるは腹ふ

皆様の格別な御支援御
鞭撻をいたゞきまして本
紙も発刊以来四年目を迎
える事になりました。

只見電源の開発、口平線
の完成と相まつて磐磐地
の發展は小名浜港の改
修にも曙光を見出しこそ
の思想で言わざるは腹ふ

の發展えの年に際し、地
方紙に寄せられる存在意
義とそまとだ大なるも
のがあるのではないかと
不肖考査致すものであります、
新年来地方新聞の
改修にも曙光を見出しこそ
の思想で言わざるは腹ふ

の发展えの年に際し、地
方紙に寄せられる存在意
義とそまとだ大なるも
のがあるのではないかと
不肖考査致すものであります、
新年来地方新聞の
改修にも曙光を見出しこそ
の思想で言わざるは腹ふ

として爲し得ざる大難事
政策、なかんすぐ社会教
育の振興に依る文化の發
展にあるのではなかろう
また志賀市長の人格から
解消、はたまた日く隣接
町村の合併問題、これぞ
志賀新市長に希んで期す
る處大なるものである。

また志賀市長の人格から
期して大なるものは文教

昭和27年(1953)2月18日(水曜日)

磐城日報

昭和26年10月6日
第三種郵便物認可
昭和運輸省特別承認634號

獨航船陣容決る

小名より瑞寶ら三隻

香取丸、第八吉長丸、第一長永丸の不適格、また七隻より十一隻の増加を水産廳に陳情、梓増業に出漁する獨航船はチヤーダーとして出漁する三隻の認可と新潟北洋組合より出漁権利を譲り受けこれに小名浜港所屬もそれより出漁船の選定を終了来る五月月中旬よりアリューシャン及びカムチャッカ島附近で操業の

法務局植田
出張所完成

中旬に船名を元の「あさり」に改名して新裝備の姿を颶美と現わし海の守りを待ちわびるこ

とになった

昨年九月工費百四十万円で着工した法務局植田出

が、この程完成近日中に落成式を挙行することに

なった

月二十二日(舊正九日)

手で工事施工中であった

新装の法務局は施工者丹野氏の犠牲的請負にて建

築したもので廳金住宅、マダム建築である

湯本町金比羅神社では二

より前夜祭をなし二十三

海上安全祈願、家内安全

常磐交通株式會社では臨

時バスを動員して參拜の

足に大サビスする事に

なつており金比羅神社で

これに對して縣北洋組合

では十七日午前十一時よ

り平市縣漁信連事務所に於いて役員会を開き

マム船の配屬船を決定す

るはか操業資金などにつ

いて協議を行つた

なお小名浜北洋組合より

母船の配屬船を決定す

るはか操業資金などにつ

いて協議を行つた

業を行ついくことにな

つており、第五瑞寶丸は

新潟船の権利で操業する

はチヤーダーとしての事

業を行ついくことにな